

ひとづくり

創刊号

弓削商船高等専門学校 情報工学科 広報誌 2011(平成23)年11月発行



ケータイ甲子園でグランプリ受賞

弓削商船高等専門学校のチーム（愛称：あいいち）は、平成23年5月22日（土）に大分市で開催された携帯電話の活用アイデアを競い合う「第1回ケータイ甲子園全国大会」のコミュニケーション部門で本選出場6校の中から最高位のグランプリ賞を受賞した。受賞した弓削商船高専のチームは、情報工学科2年の福羅亜利沙学生、林真史学生、寺岡佑太学生、島田朝妃学生の4人で、田房友典准教授が指導に当たった。入学後からクラス全員でSNS（会員交流サイト）やメーリングリスト（ML）を使って悩み相談や情報交換を続けており、「SNSとメーリングリストで作る島っ子コミュニケーション」と題材して普段の取り組みを発表した。なお、この受賞に伴い、平成23年8月27日に日本高専学会奨励賞を受賞した。

学生の感想：

昨年、クラス全体で取り組んだ「SNS」と「メーリングリスト」。この二つは当時の私たちにとって、なくてはならないコミュニケーションツールでした。私は、一年間SNSを利用して、

普段あまり関わりを持たなかったクラスメイトとコミュニケーションがとれたりして楽しかったので、ケータイ甲子園に出場することにしました。ケータイ甲子園は、ケータイのよい活用方法についてプレゼンテーションにまとめ、発表するというもので、私たちは、「SNSとメーリングリストで作る島っコミュニケーション」という題で、発表しました。発表練習は春休みに入ってからも行われ、春休みが削られたり、他のチームメイトよりも発表するところが少ないのにも関わらず、セリフを覚えられなかったりと、嫌なことや大変なことがたくさんありました。

不安だらけで臨んだ本番では、一番目の発表ということもあり、とても緊張しました。途中、何度もセリフを噛んでしまい、みんなには申し訳ない気持ちでいっぱいでした。それでも、チームメイトがフォローしてくれて、うまく発表することができました。その時、「やっぱりチームでなにかするのっていいな」と思いました。他のチームの発表は、劇や漫才、紙芝居など、一つとして同じようなものはなく、見ていてワクワクしました。その一方で、自分たちの発表は他のチームの発表と比べ、地味でオーソドックスな発表だったので、グランプリになるとは思いもしませんでした。なので、グランプリだと告げられた時、信じられなくて夢なんじゃないかと思う気持ちやら、今までやってきたことが報われてよかったと思う気持ちやらで、何が何だかわからなくなりました。

あれからしばらくたって、グランプリをとったことを実感しながら、やればできるものなのだと思います。違うことも頑張ってみようと思いました。

情報工学科 2年 島田 朝妃

上島町との共同研究採択 ～ICT 利活用推進プロジェクト～



情報工学科では、上島町における ICT 技術を活用した地域活性化に関する調査研究プロジェクトを行うことになりました。これは四国情報通信懇談会から ICT 利活用に積極的な地域を選定して、実用化を前提とした調査研究活動を進め、地域活性化につなげようとする事業です。9/12に弓削商船で行われたヒアリングを経て、情報工学科の提案が採択されました。

2年間の期間で、災害時における避難誘導システム、高齢者に優しい ICT 技術・サービス、スマートフォンを用いた緊急通報システムなどについて、研究開発、実証実験が行われます。本プロジェクトの立上げを記念して、11/6(日) シンポジウム「スマートフォンが拓く島の生活」、公開講座「iPad2 体験講座」が開催されます。情報工学科で学習している内容がどんなふうに生活に役立っていくのか、みんなで一緒に考えてみませんか？

ET ロボコン 2011 中四国地区大会の参加報告

ET ロボコン (<http://www.etrobo.jp/2011/>) は、初級の組込みシステム・エンジニア向けに、モノづくりの楽しさを経験する機会を提供し、組込み分野への興味を高める目的で毎年開催されている。今大会は 10 回目（中四国地区大会は初開催）に当たり、全出場チームはレゴマインドストーム NXT という 2 輪倒立振り子型移動体に姿勢制御やライトレースのプログラムを施すことにより、シーソーや階段の走破やタイムを競う情報系分野に特化したコンテストである。中四国地区の高専、大学、企業などから 15 チーム（全国では 338 チーム）が参加した。



本校からは徳田研究室の卒業研究生 4 名（榎田達弘、岡野弘志、十河洋介、山本美奈子）が出場し、競技部門アウトコースでは、開始直後に転倒するというハプニングに見舞われたものの、同インコースでは 3 位、UML など設計内容を記述するモデル部門では 6 位（敢闘賞受賞）と健闘した。学生は夏休みを返上して、制御アルゴリズムのプログラミングに取り組んだだけに、アウトコースの失敗がなければ…と思わずにはいられない非常に悔しい結果となった。産業界では安全性や信頼性が要求されるので、彼らが技術者として社会へ巣立ったときに、今回の苦い経験を糧にしてくれることを期待している。

新体制で高専ロボコンに挑戦



私たちは、弓削商船ロボコン A チーム **Orange-Setoka** です。メンバーは、情報工学科 5 年の岡野弘志、小林貴史、藤田和友で構成されています。今年からロボット製作部の顧問として、ロボットが専門分野である前田教官が加わりました。A チームの 2 名も前田研究室に配属したことで、全面的なサポートを受けています。その恩恵はチーム名からも分かります。このチーム名は、前田教官が掲げている **Orange(Original Arrange) Project** の一環であることを意味します。このプロジェクトは、世界に一つしかない自分たちの独創性を組み込んだロボットをたくさん作っていこうというものだそうです。

さてロボコンの話に戻りますが、私たち A チームは今年も高専ロボコン四国大会出場に向けてがんばっているわけですが、おはずかしながら私たちのロボット製作部は衰退の一途をたどっ

ているのが現状です。私たちは、今年が最後になるわけですがこの負のスパイラルを打破することが今年度最大の目標だと考えています。

そこで本年度は、校内にもっと私たちの存在をアピールし、皆さんにロボット製作部を知ってもらう活動を行ってきました。もちろん、スキルアップもかかしていません。昨年度のロボットを知っている人たちなら、今年のロボットを見て大幅に変わったことが分かることでしょう！今年だけでは、まだまだ勝負になるレベルではないですが、これからロボット製作部に大きな改革がいくつも起こることをお約束します。この改革を直接肌で感じたい人は是非、ロボット製作部に入部してください！



国立弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000 番地

<http://www.yuge.ac.jp/> 0897-77-4606

題字：馬越 唯（情報工学科 5 年）

コンピュータ教育を通して、社会に役立つ「ひとづくり」を目指します。